

平成30年度 ワムシ培養技術研修会の開催報告

川田実季（資源生産部・初期餌料グループ）



ワムシとは？

ワムシ（英名 rotifer）は、輪形動物門単生殖巣綱に属する生物の総称で、その種類は約2000種が知られています。その中で海産魚の種苗生産の初期餌料として不可欠な存在となっているのがシオミズツボワムシ *Brachionus plicatilis sp.complex* です。ワムシの大きさはおよそ0.1～0.3mmでふ化直後の仔魚の餌としてちょうど良い大きさであること、大量培養ができることなどにより、1970年代以降ふ化直後の仔魚の餌料として利用されてきました。多くの海産魚類の種苗生産の場において栄養価の高いワムシを大量に安定して培養する技術は必要不可欠なものとなっています。

国立研究開発法人水産研究・教育機構では、栽培漁業技術の普及・向上を図るため、栽培漁業関係者を対象とした栽培漁業技術研修を実施しています。この技術研修の一環として、日本海区水産研究所宮津庁舎では、ワムシ培養技術研修を毎年開催しています。この研修は地方公共団体、地方独立行政法人等の公的機関を対象に、魚類の初期餌料であるワムシの培養に関する技術について研

修を行い、ワムシ培養技術の普及と定着を図ることを目的としています。

今年度は西海区水産研究所の小磯亜熱帯研究センター長を講師として、平成30年12月4日（火）～5日（水）に京都府宮津市にある日本海区水産研究所宮津庁舎にてワムシ培養技術研修会を開催しました。今回の研修会では青森県から沖縄県に至る全国各地から例年よりも多い19名の参加者があ



西海区水産研究所小磯亜熱帯研究センター長によるワムシ概論の講義

りました。研修は1日目午前にはワムシが種苗生産の餌料として導入された経緯やワムシの生物学的な特徴などの概論の講義、午後にはワムシの計数方法や培養作業などに関する実技実習と大量培養についての講義を行いました。2日目午前にはワムシの質的評価と培養不調対策に関する講義、午後には主に各機関でのワムシの培養状況紹介と問題点に関しての総合討論を実施しました。研修生の皆様からは、研修が日頃の業務に役立つものであったとの感想や研修会への要望をいただきました。研修会に参加した皆様には実際の種苗生産の

現場で今回の研修の成果を活用していただき種苗生産に役立てられることを期待しています。

次年度以降の本研修会については、参加者の皆様からのご要望も参考に、利便性の観点から開催の時期や場所を含めて見直しを行う予定です。詳細が決まり次第関係機関には改めてご連絡いたします。また、旧栽培漁業センターのホームページ <http://ncse.fra.affrc.go.jp/15kouza/index.html> に今回の研修で講師をされました小磯氏による「ワムシ講座」が掲載されていますので、参考にいただければと思います。



ワムシの計数方法についての実技実習



ワムシの大量培養方法についての現場説明